



全日本港湾労働組合関西地方大阪支部（5支部統合） 50周年記念祝賀会

全日本港湾労働組合 関西地方大阪支部 結成50周年記念式典を開催

26年7月18日、ホテル大 阪ベイタワーにおいて、全 日本港湾労働組合関西地方 大阪支部（5支部統合）結 成50周年記念式典を開催し は、歴代役員・組合員をほ

じめ、共闘労組、関係団体、 会社関係者など、多くの皆 様の支えがあつてこそであ ると感謝の意を表しまし た。

大阪支部は、一港一支部 方針のもと五支部が統合し て発足以来、『働く仲間の 生活と権利を守る』という 使命を掲げ、賃金・労働条 件の改善、安全で安心して 働ける職場づくりに取り組 んできました。先輩方が築 いてきた権利と運動の歴史 を次世代へ継承することと

に、少子高齢化やデジタル 化、AIの進展など変化す る時代においても、組合員 一人ひとりの声を大切に し、さらなる運動の発展に 向けて取り組む決意を新た にしました。

また、式典では大阪朝鮮 歌舞団による記念演目が披 露され、平和への願いと友 好の思いが込められた歌と 踊りが会場を大いに盛り上 げました。

省、日本港運協会、日本港 湾福利厚生協会、港湾労働 安定協会、ITF東京、こ くみん共済COOPなど、 日頃より関わりの深い各団 体を招き、総勢65名の参加 で、盛大に行われた。

当日は夏の暑さを忘れる ほどの賑わいとなり、参加 者同士の交流を深める楽し いひとときとなった。

納涼会の会場では食事や 歓談を楽しみながら会話が 弾み、笑顔あふれる時間と なった。また、恒例となっ

50周年を新たな出発点と して『団結・連帯』の精神を 胸に、港湾労働者の権利と 誇りを守り、次の60年、70 年、100年へ向けて、大阪 支部のさらなる発展に全力 で取り組んでまいります。

全日本港湾労働組合
関西地方大阪支部

7月15日（水）東京港湾 労働組合連合会の協力のも と、東京港芝浦埠頭にある 東京港湾福利厚生協会が運 営する湾岸食堂波止場店 で、2026年全国港湾納 涼会を開催し、全国港湾中 央執行委員長代行の閉会の 執、顧問や事務局員の他、 我々の所管行政である国土 交通省をはじめ、厚生労働

7月15日（水）東京港湾 労働組合連合会の協力のも と、東京港芝浦埠頭にある 東京港湾福利厚生協会が運 営する湾岸食堂波止場店 で、2026年全国港湾納 涼会を開催し、全国港湾中 央執行委員長代行の閉会の 執、顧問や事務局員の他、 我々の所管行政である国土 交通省をはじめ、厚生労働



委員長賞を手にした光部さん

全労連表敬訪問



4月8日、全国労働組合 総連合（全労連）の秋山正 臣議長ら3名が全国港湾を 訪問し、26春闘勝利に向け た激励として「檄布」が手 渡された。これを受け、全 国港湾竹内委員長は「連帯 を力に、たたかいを前進さ せる」と力強く述べ、26春 闘勝利への決意を表明し た。26春闘をたたかい抜く 中で、産別・単産の枠を超 えた連帯の重要性を改めて 確認する機会となった。

6月26日には、今度は全

国港湾から竹内委員長ら3 名で全労連を表敬訪問し、 秋山議長、清岡副議長、黒 澤事務局長の3役が対応し た。

冒頭、26春闘に際して寄 せられた激励の「檄布」へ の謝意を伝えるとともに、 26港湾春闘の到達点と今後 の取り組み課題について報 告を行った。

報告の中で、玉田書記長 は、26港湾春闘における賃 金引き上げや労働環境整備 の前進面について説明し

た。とりわけ、特定利用港湾 をめぐる課題については、 港湾の兵站基地化がさらに 進行し、特定利用港湾が33 港に拡大する中で、自衛隊 による港湾利用が急速に広 がっている現状を指摘し た。また、経済安全保障の名 のもと、有事を想定した港 湾整備が急がれていること に触れ、「戦争に担担させる 港湾」へと変質させようと する高市政権の思惑が色濃 く表れていると強調した。

そのうえで、東京・新橋駅 前における「港湾を兵站基 地にするな」「港湾を戦争 の拠点にするな」の宣伝行 動を強化・継続してきた取 り組みについて報告した。

最後に竹内委員長は、「今 後とも一致する政策課題を 大切にしながら、引き続き 協力関係を築いていきたく い」と述べ、今後の連携強 化に向けた意欲を示した。

これを受けて秋山議長も、 「定期的に意見交換の場を 持ちながら、継続的な関係 づくりに努めていこう」と 応じた。

今回の訪問は、春闘を通 じて培われた連帯をさらに 深めるとともに、港湾労働 を取り巻く諸課題の解決に 向けた共同の取り組みを進 めていくうえで、重要な意 義を持つものとなった。

シャモ樽

不安定な中 東情勢を受け 『ナフサ（粗 製ガソリン）』 が不足してい る。ナフサは 石油製品の一

つで、様々な産業で使われ ている。ポテトチップスな どの包装が白黒に変わった のもナフサ由来の塗料が調 達困難になったためだ。他 には医療・福祉現場で必須 の手袋、消毒液などが供給 不安になっている。建設業 では塗料やシンナーなどの 調達に難しく、品薄から価 格も跳ね上がっている。製 造業も機械を動かす油の品 薄、高騰が深刻だ。材料の 高騰を価格転嫁できないな ど、廃業・休業の増加が懸念 される。また、自治体によっ ては指定のゴミ袋の供給に も影響が出ている。ナフサ は袋の製造や印字に必要な 原料だが、袋のデザインを 変更したり、市販品の代用 を認めたりする臨時措置に 乗り出した自治体もある。

▼そのようななか、政府は 『全体の供給量は足りてい るが、流通の過程で目詰ま りしている』と繰り返すば かりで、事態はいつこうに 改善しない。政府は正確な 情報を開示し、必要に応じ て節約を呼びかけること、 中小零細企業への部材の供 給や価格の安定化など、現 場に即した対策が必要だ。 停戦が実現しても正常化に は時間がかかる。国論を二 分する不要不急の政策では なく、仕事と暮らしを大切 にする政治をしてほしい。